

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2016年12月1日 159号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



レダ基地公館回廊より、西の地平に太陽を見送る。

日陽園、激しく、うるわし!

十二月に入り、パラグアイ川は水位が下がり、日陽園の入り江には、今年もまた広大な草原が現れました。雨季の恵みで萌え出た若草は旺盛に成長し、カピバラやシカなどの野生動物、牛馬羊などの家畜たちもたつぷりと栄養を摂り、肥え太って行きます。

果樹園のマンゴーの実は、大きくずっしりと枝から垂れ下り、赤く香しく熟れ、人間にも野鳥にも楽しみな季節です。十一月にせつせと巣作りに励んでいた緑色のインコたちも産卵から抱卵へと向かいます。

私たち人間にとって、十二月は体感温度が一年で最も高くなる月です。しかも、蚊を含むおびただしい数の昆虫が発生し、迂闊に肌を露出することはできません。でも、空の鳥や川の魚たちにとっては、すばらしい命がたくさん誕生する季節なのです。

太陽は東の空から昇ると、ぐんぐんと中天を目指します。頭上から光と熱とを降り注ぎ、正午を前後して自分の影が足下にしか見られなくなります。人も獣も鳥たちも木陰を求めてしばし昼休み。そよ風が吹けば、幸福感に目を閉じ、口を開けたくなるかも知れません。午後一番の作業に出るときは、多少の決意が要るでしょう。緑陰を出て炎暑の野に出て行く様は、あたかも出征する勇者のようです。そんな勇者の上に日陰を落とす浮雲は、天使のように思えたりもします。

突然風が立ち、砂塵が巻き上がると、あつと言う間に土砂降りに見舞われます。地面がぬかるみ、車両は走れなくなります。屋外作業員は臨時休業に。もしこれに雷が加わると、恐ろしく壮大な天と地の花火大会が始まります。爆弾の破裂のような雷鳴に肝も冷え冷え、雷雲が遠ざかると、鮮やかな虹が現れます。くつきりと描かれた鍋弦のスペクトル。そして西につるべ落としで沈む太陽を見送るとき、星の王子様、王女様の楽しみを体験できるでしょう。(太陽系第三惑星です)夏の夜は、オリオンが中天にやってきました。天の川はまさに乳の川。横たわっていた南十字星も、次第に起き上がってきます。ほむべきかな、わが創造主!



朝礼で自己紹介する紅屋氏。(10月31日)



朝礼で自己紹介する中村氏。(10月31日)



レダ基地で働く人々を追って

朝礼で、お祝いのお菓子を配る上山氏と、受け取る作業員たち。(10月31日)



第一農園内の育苗所で苗木に灌水する伊達氏。(11月1日)



停電中も、乾物倉庫にて在庫点検する大和田氏。(11月1日)



加工食品工場にて、パクーのフィレを作る小橋氏。(11月3日)



木工所にて、本棚に続き工具棚を製作する水落氏。(11月1日)

加工食品工場にて、パクーのフィレを作る小橋氏。(11月3日)

水作りとパクーの餌やりは上山勝吾郎さん、カピバラとシカの飼育と犬のワンワンの世話は土佐さん、養殖の基礎実験とタロイモ研究栽培は奥迫さん(次面)が、それぞれ若い力を発揮して頼もしいばかりです。

パブロさんは、車両と機械類、電気関連の修理とメンテナンスのほか、外出の仕事もこなし、ビクトルさんは植樹園、果樹園、花壇、育苗所ほか、一日中暑い太陽の下で植物を守っています。中田所長は所用のためアシシンオンに滞在し、十一月四日、バスとボートを乗り継いでレダ基地に戻りました。(写真と文＝小田)

木工所にて、本棚に続き工具棚を製作する水落氏。(11月1日)

十月二十七日深夜、紅屋氏と中村氏とがレダ基地に到着しました。はるばるのコンセプトから、貨客船アキダバンに乗っての長い船旅でした。航行中、紅屋氏は船内の掃除をしたそうです。レダ基地到着後も、従業員トイレや従業員食堂の清掃を買って出ました。中村氏は上山氏の同道で、レダ基地全般の業務について熱心に学んでいます。

古参の大和田氏と伊達氏は、相変わらず多忙が日常化した生活を黙々と送っています。小橋氏の作るパクー骨なしフライや、かまぼこ、ソーセージなどは、パラグアイで最高級の食材です。水落氏は仕事の合間にトリマーという電動工具を使って、美しい装飾文字やデザインをあしらった製品を創出しています。

人々の生活の向上に貢献したい！

養殖の基礎研究・実験に取り組む若者

去る9月25日、大きな夢を抱いた青年がレダ基地にやって来ました。奥迫孝顕（おくさこたかあき）さん（25）です。大学のインターンシップとして、六か月間、レダ基地において養殖法を研究します。

小一の頃からナマズ、エビ、ハゼなどを飼い、後には古代魚も飼うなど、魚が大好きだったという奥迫さん。高校では生物学を二年間学び、さらに役立つ学問をしたく、大学で水産生命学科に進みました。

養殖で苦心したのは、魚のエサとなる微生物を発生させること。本に書いてある通りにやってもうまく行かず試行錯誤を重ねてきました。

レダ基地では、養殖と併せて、タロイモ水耕栽培における水質、水深などと、タロイモの成長率の関係も綿密に記録し、研究しています。

今回、鮮文大学校水産生命医学科からインターンシップとして日陽園レダに来ました。水や電気が不足している貧しい地域で、家庭単位で簡単にできる養殖法を実現し、普及していく。そのために、日陽園レダ基地に来て養殖を学ばせてもらっています。



パクーの養殖池で餌まきをする奥迫さん



タロイモの葉長や茎高などの成長を測定。



キダチアサガオ。

最初の一か月は、パク養殖の基本である餌まきから、パクを池に放流する下準備、パクの収穫及び下拵え、池のまわりの清掃、パクのエサとなるキダチアサガオの実採り、トラクターによる養殖池の増設作業、そして、パクに掛かっている生産コストの把握と計算などを学ばせてもらいました。この一か月でパク養殖の現状と問題点などを把握することが出来たのは大きかったです。

今現在レダで行なっている養殖法は、川から水を流し込んで行う粗放養殖です。低密度で養殖すること、手間とコストを大きくかけなくても出来る養殖法です。しかし、それでも大量の水、強力なポンプ、そしてポンプを動かすための電力または自家発電機用の燃料が必要です。そして外部から購入し



一日2回の餌まき。慣れた手つきです。



アクアポニクスによる基礎実験。

た人工飼料に大きく依存しています。

このままのやり方では、レダで出来ても、インディヘナの村に導入することは非常に困難です。

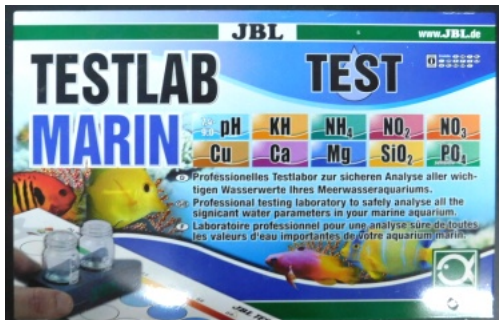
そこで、水の入れ換えを一切せずに、安価なエアレーションとポンプを使って小規模実験をしています。水槽に1立方メートルの水を入れ、最大何匹の



パンタナール研究所にて水質検査。

パクを養殖できるのかを調べ、水耕栽培形式でパクの汚れた養殖水を浄化してくれる植物を調査しています。つまり、アクアポニクスによる完全閉鎖型循環養殖の基礎実験です。

基礎実験なのでレダにある道具と水質検査キットさ



水質検査キットの多項目にわたる試薬。

えあれば簡単にできます。地味で簡単な実験ですが、以前、焦って基礎実験を飛ばして大失敗したので、今回は焦らずに着実に実験して行こうと思っています。

今後の目標としては、アクアポニクスによる完全閉鎖型循環養殖の基礎実験の成功と、鮮文大学校にあるエビ養殖技術導入の為の基礎研究を成功させることです。

そして、愛天・愛人・愛国の理念を持った鮮文大学校の後輩たちが、ここ日陽園レダで、自分が持つ各専門分野の実践訓練を思う存分にして、世界へ貢献していけるように一生懸命頑張ります。

● 鮮文大学校、水産生命医学科4年、奥迫孝顕



あいさつする中田欣宏当法人理事長。



シラカシの下、ドングリ拾いもしました。

第12回 パンタナール1Dayセミナー

十一月十二日（土）美しい秋晴れの下、神奈川県川崎市民プラザ二階セミナールームにおいて、第十二回パンタナールワンデイセミナーが開催され、47名が参加しました。会場は満席でした。

十時二十分、大滝順治氏の司会で始まり、中田理事長が開催のあいさつをしました。次いで柴沼講師による「レダ・パンタナールにおける理想郷建設」では、レダプロジェクト出帆の際の文鮮明先生の言葉、初期の開拓の歩み、そして青年ボランティア活動を通して導かれてきた世界を熱く、楽しく語りました。

昼食をはさみ、高津講師による「地球環境問題と森づくり」では、まず市民プラザ周囲の林に出かけ、森の成り立ちと



柴沼邦彦講師



高津啓洋講師



佐野道准講師

この仔鹿は大型種だという土佐さん。もうじき草を食べるようになります。



「俺の名はワンワン。土佐さんは日本に帰る。よいこの諸君、俺と遊んでくれ！」



戻ると、生物多様性を守ることと植樹活動の意義を解りやすく解説しました。佐野講師による「なぜレダなのか」では、レダでの具体的な苦闘の歩み、そして如何に文先生の言葉を農業、植樹、養豚、牧畜、養殖、地域への奉仕活動などの分野で実体化してきたのかを大変分かり易く、感動的に説明しました。

これから三大セッションの合間に、野口優太さんによる第16回青年奉仕隊参加報告、島田青年局長によるボランティアの呼びかけと、派遣要領の説明などがありました。実際、野口さんは来年初めに中期でレダで奉仕活動をする準備をしています。

最後に、グループごと各講師を囲んでの懇親会は、参加者たちが率直な意見や感想を述べる親密な交流の時間になりました。なお、今回は青年がとても多く参加し、希望を感じたことを特筆したく思います。



野口優太さん



島田賢二青年局長

その存続の大切さとを大きなカシの下で語り、参加者たちはドングリをたくさん拾いました。そして屋内に

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名: シヤ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。